



第440号
2023年12月
〒461-0004
名古屋市東区葵2丁目6-35
カトリック名古屋教区広報部
電話 (052) 935-2223
FAX (052) 935-2254
news@nagoya.catholic.jp
印刷所 株式会社 荒川印刷
毎月第1日曜日発行

宣教地召命促進の日・献金 12月の第1日曜日
この日、私たちは祈りと犠牲によって「収穫のために働き手を送ってくださるよう」に、収穫の主に「願います。当日の献金はローマ教皇庁・福音宣教省に集められ、全世界の宣教地の司祭養成、男女修道者の養成のために用いられます。

教区101年目
出て行こう！
神からの恵み
AGIFTを
告げるために

教区ホームページ
福音のひびき
12月の説教者
3日 待降節第一主日 太田実 (一宮教会)
10日 待降節第二主日 小川満 (北陸ブロック富山地区)
17日 待降節第三主日 暮林響 (神言会)
24日 待降節第四主日 ボノンパン・フレデリック・フリッツ (福井教会)
25日 主の降誕 椎尾匡文 (高蔵寺教会)
31日 聖家族 大海明敏 (平針教会)

大人のための侍者講習会

よく準備された…
みんなでささげる… ミサ
一致に向かう…



名古屋教区典礼委員会「大人のための侍者講習会」が10月9日、南山教会大聖堂で開かれた。参加者は30人を超えた。遠く金沢からの参加もあった。南山大学准教授(倫理神学)のヤコブ・ライチャー二神父(神言会)が講師を務めた。写真:ヤコブ神父は神学生の養成に関わる経験と司祭としての立場から、これまでに学び得たことを分かち合った。

ミサをささげるとは、して父なる神に聖霊の働きによってキリストをささげる。それはキリスト者としての生活の源泉であり頂点である。

ミサは毎日ささげられるが、同じことを「繰り返している」のではなく「続けている」のである。手を使って行うことだけではなく、むしろ目に見えないところで行われている。

ミサに参列している私たちがただではなく、ここにいない(いることができない)人や、死者、天使、すべての者が共にささげている。賛美の歌も

私たちが歌っているわけではなく、天使や聖人も声を合わせて歌っている。世界中で歌っている。典礼の意味・精神を理解することが大切である。

一致に向かうミサ、どこで行われるミサも流れなど本質は同じだが、多様性を重視している。多様性を重視しているが、一致に向かうのである。

仕草や声の大きさ、速度など、さまざまな人がいるので難しさもあるが、一人ひとりが心を合わせれば可能である。自分の役割を果たすだけでなく、全体を理解している必要がある。

ミサにはさまざまな奉仕がある。祭服を着て行うことだけでなく、共にいること、一緒に歌う

こともとても大切である。ミサと空間、ミサが行われている時に聖堂で一番大切なところはどこだろうか。ささげ物を置く祭壇である。祭壇には余計なものはない。必要なものは置かない。必要な時、

必要なものを置くのである。みことばの食卓である朗読台も同じ。このほかに、お辞儀などの動作も度を過ぎると逆効果となるなど、理解しやすい実例をあげながら奉仕に取り組む者の心得を理路整然と解き明かした。

また、ミサは香部屋から始まり、奉仕する人の心を整えるところから始まるので、ふさわしく環境を整える必要があることも指摘した。片付いていない倉庫やたんなる控室のようでは十分に心を

整えられない。よく準備されたミサは機械的に行われるのではなく生きたものとなる。専門家のワンマンショーではなく、みんなが貢献できるミサが望ましい。こうしてささげられるミサは聖堂で終わるのでは

なく、私たちの日常生活での奉獻につながる。アンケートでは「よく理解できた」「取り組みを見直すきっかけとなった」など、実践につながりたいとの声があった。

(教区典礼委員 新内飛鳥)

した殉教者たちに不屈の精神をお与えになった全能の神よ、今日、彼らがいさおしをたたえる私たち一人ひとりに、現代の日本社会の中で信仰を証しする勇気をお与えください

当日のミサ献金3万7千円は、キリシタン慰霊碑や遺物の保存に感謝しつつ栄国寺に寄贈された。

昨年度まで2月に実施されていた殉教者祭だが、金沢で行われる福者ユスト高山右近(記念日は2月3日)の顕彰祭と重ならないように今年からは10月のスポーツの日に実施されることになった。

(殉教者顕彰委員会 橋本裕明)

炊き出しには夢がある

ホームレス支えて40年

竹谷神父インタビュー



福音館の厨房で炊き出しの下ごしらえをする竹谷神父

ホームレスや生活困窮者に食事を提供する炊き出し活動に40年余りの長きに渡って関わっている竹谷基神父(神言会)にこれまでの歩みを聞いた。竹谷神父が炊き出しに出合ったのは1981年、神学生時代のこと。当時は教区センターでお

にぎりを作って名古屋駅に持って行き、野宿労働者(ホームレスの呼称は2003年「ホームレス自立支援法」制定以降)に提供していた。

初めて参加した時、相馬信夫司教(当時)もみずから奉仕をしていた。竹谷神学生はその日、ボランティアのリーダーから聞いた話に大きな衝撃を受けた。

「彼らは怠け者ではない。日本の経済成長の犠

牲者だ。安い賃金で雇われ、保険などの保証もなく、けがや病気、また不景気になれば即、解雇され、使い捨てにされる」

それまでの竹谷神学生は街でホームレスを見かけると「怠け者、汚い奴」と差別しながら目を背けて通り過ぎていた。しかし、自分が生きていることは誰かの犠牲の上にあると気づかされた。この

いけない。こうして竹谷神学生は炊き出し活動に進むようになった。

ちょうどその頃、神言会が「貧しい人との連帯」を方針にした。自分も司祭としてそういう生き方をしたいと思った。

「炊き出しが目的ではない。もちろん今食べ物に困っている人には緊急に提供するが、それは根本解決にはならない。誰もが自分で働いて食べていけるような、炊き出し

活動が必要ない社会にならなければ」と竹谷神父は言う。しかし、炊き出しに並ぶ人は増えているのが現状だ。

ホームレスとの出会いと交流によって、彼らがホームレスから脱出することにつながっていく。

着る物を提供するだけでなく身体もきれいになるようにと、野外風呂を作って好評だったこともあった。また、理解者が古いアパートを貸してく

れた。希望者に1年間限定で入ってもらい、1年後には生活保護を受けて自分でアパートを選んで移れるようにした。それが「ホームレスからの自立の第一歩」と竹谷神父の声に力が込められる。

今、大腸がんを患う竹谷神父は言う。「がんになつてから、やなせたかしの本を読むようになった。これも一つの恵み」。やなせたかしの言葉「ひととはひとを喜ばせる

ことが一番うれしい」を取り上げてインタビューの最後にこうアピールした。「炊き出し活動もそのう。炊き出し活動は夢のある活動。みなさん、どうぞご参加ください！」

(曾我久子)

証しする勇気を

殉教者祭・栄国寺



献花に並ぶ参列者たち

名古屋教区の殉教者祭が10月9日、名古屋市中区の栄国寺で行われた。小雨の降る中、信徒の出席は70人余りだった。

今年も栄国寺第20代当主の若松一雅住職から、尾張藩主徳川光友がキリシタン殉難の菩提を弔うために同寺を創建し、丹羽郡薬師寺(現・江南市)から阿弥陀如来像を移し

た来歴を聞いた。ミサの司式は殉教者顕彰委員会委員長・浅井太郎神父が行った。

ミサ式文のうち集会祈願は、かつて野村純一司教(現名誉司教)によって作られたものであり、叙唱では尾張・美濃の殉教者たちがたたえられた。

説教では、高山照友

(右近の父)配下にあつたコンスタンチノによる尾張キリシタン共同体の誕生から始めて、濃尾地方のキリシタンの殉難の歴史を振り返った。長崎で殉教した日本二十六聖人の中の5人の尾張出身者、一宮村で火刑に処された4人の殉教者、さらに塩(可児市)、五郎丸(犬山市)、高木村(扶桑町)での殉難を紹介した。

最後に浅井神父は結びの祈りを次のように唱えた。

「この地で信仰を証し

した殉教者たちに不屈の精神をお与えになった全能の神よ、今日、彼らがいさおしをたたえる私たち一人ひとりに、現代の日本社会の中で信仰を証しする勇気をお与えください

当日のミサ献金3万7千円は、キリシタン慰霊碑や遺物の保存に感謝しつつ栄国寺に寄贈された。

昨年度まで2月に実施されていた殉教者祭だが、金沢で行われる福者ユスト高山右近(記念日は2月3日)の顕彰祭と重ならないように今年からは10月のスポーツの日に実施されることになった。

(殉教者顕彰委員会 橋本裕明)

50周年記念ミサとパーティー 多国籍信徒集う

新主任司祭迎えて

半田教会

半田教会は9月17日に創立50周年を迎え、松浦悟朗司教司式による記念

ミサと祝賀パーティーを開催した。写真。

ミサは、神言会日本管区長サンティアゴ・エドガルド・ジュニア神父、主任司祭ジェブラ・エ



ウゲニウス神父、港教会の山野聖嗣神父、神言学院の暮林響神父が共同司式をした。そして多くの信徒が参列した。

半田教会には日頃からブラジル、ベトナム、フィリピンの信徒が集まる。この日も多国籍の人々で祝賀会を催すことができた。

多くの貴重な体験をしてきた青年たちには、伝えたいことが山ほどあった。

他の報告事項としては、平和年間、今年度予算の執行と来年度予算の請求、高齢者祝福カードの配布、名古屋・栄国寺と金沢(高山右近)の殉教者祭、来年の年間予定表、WYD、大阪高松大司教区の設立、日本カトリック神学院、聖職者による性虐待問題などがあつた。

さらに新年の集いと司祭・修道者の金銀祝(ダイヤモンド祝を含む)について審議された。

審議はいずれもコロナ後の祝賀会のあり方を巡るものだった。結論として、来年の新年の集いは祝賀会が行わない。新成人の交流は青年委員会に一任する。2024年春の金銀祝は、春分の日ではなく聖香油ミサの中で行う。ミサ後に小規模の茶話会を準備する。

名古屋教区の宣教師牧活動(行事など)はすべてこの宣教師評で司教とともに検討し、結論される。宣教師評は教会法第51条以下に根拠を置き、年に3回、2月6月10月の第1日曜日に開かれる。原則司祭1名と信徒男女各1名のブロック代表者、加えて司教任命者によって評議会は構成される。(早川努)

10月宣司評 WYD参加者報告 コロナ後の祝賀会は？

2023年度の第2回宣教師評議会議(宣司評)が10月1日に開かれ、6月以降の活動報告と、今

後の活動についての審議が行われた。教区設立10年からの課題の一つ「次世代につなぐ信仰」につ

いて、ワールドユースデー(WYD)リスボン大会の報告があり、ビデオ観賞、参加した青年5人の報告を聞いた後、さらに分ち合いを行つた。

青年たち一人ひとりから詳細な報告があつた。

「とてつもないこと」を知ることができた気がします。「看取り士さんという存在を知ることができてよかった。死を受け入れることが、看取り士さんが最期まで寄り添ってくれるとたいへんありがたく心強

いと思つた」「とてもよかったです。大勢の人に観てもらいたい」などの感想があつた。

毎日の生活の中では忙しく時間があつたという間に過ぎてしまつたが、「みとりし」を観て、最期の時を温かくするために

も、当たり前前の時間を大切に感謝しながら過ごしていこうと思つた。映画を通して看取り士という職を知り、死について深く考える良い機会となつた。(JCN A名古屋支部 会員 山崎道子)

「みとりし」映画上映会

愛されて旅立てるように

カトリック看護協会と看取り士会

カトリック看護協会名古屋支部と看取り士会の共催による映画「みとりし」上映会が10月7日、聖霊病院・聖霊ホールで開かれ、およそ50人が参加した。

この映画は日本看取り士会会長・柴田久美子さんⅡ写真Ⅱの実体験をもとに作成され、2020年ロサンゼルス日本映画祭で三つの賞を受賞した。しかし、コロナの感染流行で映画館が閉鎖され、上映できなくなつてしまつた。



カトリック看護協会の顧問司祭・暮林響神父と、カトリック信者で看取り士として活躍してい

る方との出会いが上映会のきっかけとなつた。

この映画の主人公は交通事故で娘を亡くした58歳男性。彼は喪失感の中で日々を過ごしていき

が、同僚の死をきっかけに「看取り士」の存在を知り、看取り士という仕事をセカンドライフに選

んでいくというストーリーだ。

上映後、「看取り士会」を創設した柴田さんは「日本のQOD(死の質)は世界第14位。看取り士はこの死の質を高める活動を行つており、すべての人が最期を愛されていると感して旅立てる世界を作ることが夢です」とあいさつした。

マザーテレサを敬愛しているという柴田さんのこの言葉の実現を目指して看取り士は、在宅で逝く人の最期に寄り添い、家族と共に看取りをしている。

上映会の参加者からは「本当の意味での寄り添

活動グループで信仰表現 勇気・元気を分かち合い

信徒使徒職大会に140人



活動グループの自己PR

名古屋教区信徒使徒職大会が10月7日に行われ、140人の参加があつた。本大会のテーマである「つなげよう 喜びとともに」の趣旨に賛同する多くの活動団体とグループが参加した。ワールドユースデーに参加した青年たち、フィリピングループ、神戸・大阪より

参加したゴロー司教&兄弟バンド、それぞれが素晴らしい信仰の表現を通して大きな勇気と元気を分かち合つた。

参加団体が多く、限られた時間の中で実施するために、発表には時間制限が設けられた。

主催の名古屋教区信徒使徒職協議会会長・平松富男さんからは多くの関係者への感謝と同時に迷惑と不便をかけたとしておわびの言葉が届いている。

56年から10年間は熱田区鍋釜町の修道院で活動しましたが、67年1月には、ついに布池に書院が完成しました。「布池の大都会に出てきた聖パウロ書院に、神父様がこの期待は大きかった」と記されています。

これに加え、62年12月〜81年2月、名鉄百貨店にセントポールコーナーが設けられ、18年にわたつて、教会案内の役割を担わせていただきました。

キリストを知らない方々への架け橋として 皆様とともに歩んだ70年の感謝をこめて

聖パウロ女子修道会 管区長 シスター 松岡陽子

今年のクリスマスをもって布池教会に程近い「名古屋聖パウロ書院」を閉鎖し、二日後の27日には修道院を閉鎖する運びとなりました。70年にわたり皆様温かく迎え入れていただき、交わりの喜びのうちに宣教を果たすことができました。会員一同、心よりお礼申し上げます。

1953年、聖パウロ女子修道会を名古屋教区にお招きくださったのは当時の教区長、後の初代教区司教、松岡孫四郎師でした。そのころの名古屋教区は「人口850万人に対してカトリック信徒は5733人、求道者は664人」だったと修道会の記録にあります。

こうして名古屋での宣教を開始し、54年〜56年、名古屋市瑞穂区大喜町、市電の停留所「牛巻」の近くにあつた教区の木造二階建ての家を修道院としてお借りしました。当時は家庭訪問宣教が中心でした。本部から送られる本をカバンにいっぱい詰めて、シスター二人(またはシスターと志願者)が組になり、家庭を一軒一軒訪問して教会を案内し、キリストの教えやキリスト教の価値観を伝える本を紹介し

ます。学校や会社も省くことなく訪問し、一日90軒、100軒と訪問してました。当時は、このような宣教が人々に受け入れられました。主税町教会や修道院の日曜・土曜学校でも教え、近所の子どもたちも大勢集まつたとい

います。66年には初の試みとして、映画「天地創造」の2か月ほどの上映期間、映画館内に女子パウロ会のコーナーが設けられたそうです。67年〜70年ころにはクリスマス前の時期、「オリエンタル中村」でも宣教しています。

その後、家庭訪問宣教は徐々に人々から受け入れられなくなり、車を使つての団体訪問宣教に力を入れるようになりました。名古屋教区ばかりでなく、三重県、長野県、静岡県などにも出かけ、教会や学校・幼稚園を訪問しました。小教区では、神父様がたや信徒の皆様温かく迎えていただき、信仰生活に助けとなる書籍の普及を果たすことができました。また、キリスト教教育が基盤にあるカトリック系の学校・幼稚園では、シスターがたや先生がたのご協力により、聖書物語をはじめ多くの書籍をおして宣教することができました。布池の聖パウロ書院や修道院でも、イベントを催すなど多くの人々が福音に出合えるように工夫を重ねられました。こうして教区の皆様と力を合わせ、福音宣教にまい進することができました。

近年は姉妹たちの高齢化に伴い運動して本を運ぶ訪問宣教も難しくなり、活動は縮小されていきましたが、それでも信徒協力者の方々の寛大なお力添えをいただきながら、日曜日に教会に出かけたり学校・幼稚園を訪問したりし、また宣教の拠点である書院での宣教を続けてまいりました。

名古屋教区からはたくさんの方の召命もいただきました。姉妹たちは皆、豊かな交わりと宣教の日々を心に抱き、お祈りをささげています。

皆様、たいへんお世話になり、ありがとうございました。今後とも一緒に宣教を果たしてまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



奇跡の主の行列 司教座聖堂で初!

小牧のペルー人グループによる

セニョール・デ・ロス・ミラグロス(奇跡の主)の聖行列とミサが10月1日、初めて布池教会で開催された。

ペルーの首都リマでは10月の第1土曜日と18、19日、28日、11月1日に、奇跡の主の神輿(みこし)が市内を巡行する。聖行列(プロセスオン)に際し、信徒・修道士たちは主キリストの受難にちなみ紫色の衣を身につけ、さらに白い帯を、女性は

腰に巻き、男性は首から掛けて参加する。今日ではリマのみならずペルー全体の国民的行事となっており、ペルーに隣接する南米各国の他、北米やヨーロッパその他の国々でもそこに住むペルー人たちによって行われている。

その一つがカトリック小牧教会だ。今年の9月には聖行列を企画・実行するミラグロスグループが結成されて13年を迎えた。グループでは経済困難者などの支援活動も行っている。その活動はホームページに載せたり、松浦悟郎司教や協力者の司祭たちにも報告されている。

2020年からコロナ禍となってしまったが、ネガティブ思考にはならず、逆に、いつも通りの支援活動を通して信者にポジティブ思考を伝えていこうと、めぐる活動が続けてきた。感

染拡大を防ぐために聖行列は行わず、ミサのみでの祝い3年続いた。祭りの裏づけに 困窮者支援活動 コロナ感染症が5類となり、10月の行事の準備を行なっているとき、メンバーの一人が他国のミラグロスグループのSNSの投稿を見ながらふと疑問に感じたことがあった。それは、なぜ他国では司教座聖堂で聖行列と

えいごで聖句ドリル

"This very day in David's town your (ア) was born — (イ) the (ウ)!" 『今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。』(ルカによる福音書2章11節、主の降誕・夜半のミサの福音より)

Q. ア、イ、ウに入る語を次の中から選びなさい。
① Jesus ② Christ ③ Messiah ④ Savior ⑤ Lord ⑥ King
(英語は Good News Bible、日本語は新共同訳聖書によっています)
〈解答は次ページ〉

ビバ! アパレシィダ! ブラジルの聖母祭り

多治見



シィダの聖母の花みこしを作ったり、手作りの温かいおにぎりやスープレ、手作りキャンドルの販売などで協力した。ブラジル人たちと一緒にアパレシィダの聖母をたたえ、一つになれたことは、うれしい恵みとなった。

新型コロナウイルス感染症の影響で中止になっていた「アパレシィダの聖母の祭り」が10月8日、3年ぶりに多治見修道院で行われた。午後からは雨が降り、肌寒い日となったが、多くの人が集い、最後まで熱く聖母をたたえた。

祭りのクライマックス、雨の中を登場したアパレシィダの聖母像に会場総立ちとなり、司祭が素敵な賛美歌を歌い、「ビバ、アパレシィダ!」の声があふき、熱く響き渡った。日本人協力隊はアパレシィダの聖母の花みこしを作ったり、手作りの温かいおにぎりやスープレ、手作りキャンドルの販売などで協力した。ブラジル人たちと一緒にアパレシィダの聖母をたたえ、一つになれたことは、うれしい恵みとなった。

誰ひとり取り残さない

600人が1泊2日で 力障連長崎全国大会

第14回日本カトリック障害者連絡協議会(カ障連)長崎全国大会が10月14、15両日、長崎純心大学を会場として開催された。誰ひとり取り残さない社会「ともに」のうで(長崎弁で「一緒に」)のテーマの下、札幌から鹿児島ま

で全国から会員が集まった。大会スタッフと信徒のボランティア、長崎純心大学生と中高生のボランティアを含めると約6百人が2日間をともに過ごした。

名古屋教区からは信徒約30人と、カ障連名古屋担当・志村武神父(日比

野教会、カリタス福祉委員会担当・山野聖嗣神父(港協会)、そして自身が聴覚障害者である狩浦正義神父(美濃加茂教会)の3人の司祭が参加した。

1日目は午前総会を開いて活動報告や予算の承認などを行い、午後には元熊本学園大学教授で弁護士の大塚裕さんを講師に「インクルーシブ防災」と題して基調講演が行われた。2日目は全体会として紙崎新一神父(長崎教

区)をファシリテーターとして前日の基調講演や分科会での気付きを分かち合った。感謝のミサII写真上IIではカ障連顧問司教・前田万葉枢機卿や中村倫明長崎大司教をはじめ20人の司教・司祭が祭壇を囲んだ。閉会式では次回2026年の開催地が名古屋と発表された。また、この大会を機に長崎カ障連が結成されること期待されている。基調講演と感謝のミサはYouTubeで視聴することができる。

予知できない自然災害にあつては、障害者に限らず他者の手を借りなければ避難できない老人や子どもたちの実態を把握する事、それに対応した国レベルでの支援対策、そして真の意味での合理的配慮が行き届いていない現実を語った。

障害者には、声をあげて何度も何度も訴える勇気が必要と励ました。「声をあげる人たちが支え合って誰もが安心して暮らせる社会になっていく。私たちは諦めずそれを目指すことです」(名古屋教区 カリタス福祉委員会)



開催までの経緯 国連が国際障害者年を宣言した1981年、聖ヨハネ・パウロ2世が教皇として初めて日本を訪問した。これきっかけとなり、個別に活動していたカトリック教会内の障害者グループが連帯し

てカ障連は結成された。翌年10月、京都教区河原町教会において設立総会が開かれ、その後3年ごとに全国の教区を巡り、総会と全国大会を実施してきた。

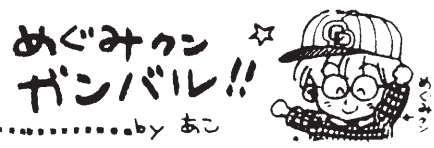
障害への理解と継続した支援、自立と社会参加の実現を目指してきたカ

障者であることから当事者視点で現場に向き、災害時の脆弱な部分に目を向け、集めた情報から障害者に限らず弱い人たちが一日も早く安心して日常生活に戻れるようにと支援策を提案している。

講師の東さんは大規模災害が発生した時の障害者死亡率が高いことに注目し、災害の予防、応急対策、復興支援の基本的機能が当事者に適切に支援されているだろうかという疑問を投げかけた。

公的支援の網の目からこぼれ落ちる障害者が常にいる現実を知ること、一人一人の必要に合った支援を続けることが必要であると説く。

東日本大震災を機に災害対策基本法が改正されてはいるものの、高齢者や障害者という弱い立場の当事者たちへの支援は十分ではない。被災後にも重篤な状況に陥っていること、死亡率は一般の人と比べると2倍であることなどをデータから紹介した。



めぐみカンガンバル!! by あこ
「幼子殉教者の日」を思い出した
イエスの誕生を邪魔する為に...

赦しを癒しを慰めを安らぎを希望を平和を
これほど渴望する待降節も珍しい

こんな時だからこそ
なおい強く
世の罪を取り除くために...



2023年度正義と平和学習会

年間テーマ 「やられた方から歴史を見るパート2 誰一人置き去りにしない」
テーマ 「フクシマからの避難者」
講師 岡本早苗
日時 2024年1月12日(金) 10時30分~12時
会場 福信館
問合せ 名古屋教区正義と平和委員会

えいごで聖句ドリル解答

ア=④ Savior イ=② Christ ウ=⑤ Lord
降誕の夜、野宿をする羊飼いたちに救い主の誕生を告げる天使の言葉です。
「savior = 救い主」「Christ = キリスト」「Lord = 主」などの言葉は、一般の英語学習者にとっては難しい語句ですが、キリスト者にとっては必須です。...

- 祭日(祝) 祝日(記) 記念日
12月の教会暦
3日(日) 待降節第1主日
7日(木) 宣教地召命促進の日(献金)

- 1月の主な教会暦(主日・祭日など)
1日(祝) 神の母聖マリア
7日(日) 主の公現
14日(日) 年間第2主日

第17回 ホスピス聖霊講演会

テーマ「日本人と死生観への問い」
講師 島蘭進氏 NPO 東京自由大学学長
日時 2024年2月10日(土) 13時30分~15時
会場 聖霊病院2階 聖霊ホール
対象 一般
定員 100名
申込み 2月2日(金)必着

大阪高松教区の設立式ミサ 前田万葉初代大司教

大阪、高松の両教区を統合して大阪高松大司教区を設立すると、教皇フランシスコが8月15日に発表したことを受け、新教区の設立式ミサが10月9日、大阪高松カテドラル聖マリア大聖堂(玉造教会)で行われた。
7府県内外から約1200人が参列した。主司式は初代大司教に任命された前田万葉大司教。...

東京教区に補佐司教 12月16日に司教叙階式

教皇フランシスコは9月16日、ミラノ外国宣教会のアンドレア・レンボ神父を東京教区補佐司教に任命された。司教叙階式は12月16日(土)、東京カテドラルにて行う。...

建設費の返済に協力を
662件 35,341,634円
目標額 40,000,000円 (10月末現在)
達成率 約88.3%

カルメル修道会日比野修道院
講座、黙想企画
【旧約聖書から学ぶキリスト教霊性】
一キリストの十字架の恵みをより味わうためにー
テーマ 10の災いとファラオのかたくなさ、シナイ契約と神の慈愛(ヘセド) (出エジプト記)

聖霊中学・高等学校
「第42回 EVE, My 青春！」
本校オーケストラ部、聖歌隊によるクリスマスキャロルの演奏
日時 12月16日(土) 15時~16時 (雨天中止・小雨決行)

光ヶ丘女子高等学校
クリスマスページェント 2023
光ヶ丘女子高等学校の伝統行事であるクリスマスページェントが今年も開催されます。天地創造からキリスト降誕までを、吹奏楽部の演奏に乗せて描くミュージカル劇。...